The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	バウハウス創設100年
Author(s)	宮島, 久雄
Citation	デザイン理論. 2018, 71, p. 17-17
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67710
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

第２回デザイン関連学会シンポジウム　基調講演概要

バウハウス創設100年

宮島久雄

バウハウスは1919年に創設されたので，2019年は創設100年になる。バウハウス本体はヴァイマルからデッサウ，ベルリンへと移転したあと，ナチスによって閉鎖されたが，あとのヴァイマルの校舎には建築・美術大学が入り，現在はバウハウスの名を冠した「バウハウス大学」となっている。デッサウの校舎には，戦前は職業学校，ナチスの学校などが入っていたが，校舎は戦争で大きな被害を受け，戦後1976年に修復されたあとは科学文化センターやデザイン・センターが入り，現在は「バウハウス・デッサウ財団」となっている。この財団は教育研究，作品収集の機関として，教育とともにバウハウス製品の収集活動，展示も行っている。とくにモダンを象徴するデッサウの校舎は，いまはバウハウスは入っていないにも拘わらず，なおもデモなど反対勢力の攻撃の対象になっている。ベルリンの校舎はもともと仮住まいの工場だったこともあり，バウハウス閉鎖後の使用は知られていない。

このほか，ヴァイマルにはクラシック財団が運営する「バウハウス美術館」があり，資料も収集しているという。資料館としては，ベルリンに「バウハウス資料館」があり，作品の展示もおこなっている。この館の資料はハンス・M・ヴィングラーが収集したもので，1960年にダルムシュタットの資料館に収蔵され，その後ベルリンへ移転してきた。この資料館はヴァイマルの「クラシック財団」，デッサウの「バウハウス・デッサウ財団」とともに「バウハウス同盟2019」を結成し，2019年のバウハウス100年祭に向けて，共同で展覧会などの計画を進めているという。これらの館の収蔵品は日本でもセゾン美術館や東京芸術大学美術館で展示された。なお，日本のバウハウス専門資料館「ミサワ・バウハウス・コレクション」もバウハウス作品を収蔵している国内美術館とともに100年展を計画しているという。

これら内外のバウハウス100年展を機会に，バウハウスに対する関心が少しでも拡がり，バウハウスの国際的な研究，交流などの進むことが期待されるところである。